



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 47 号 2012. 11. 13

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

八雲牧場から実習展示用肉用牛を移管

9月11～12日の日程で、八雲牧場から実習展示用に肉用牛を移管のため、久保田主任と泉主任が出張しました。

まだまだ残暑厳しい十和田から海を渡り北海道へ行くので少しは涼しいのではと思っていたのですが、北海道も例年になく暑い日が続いている様でした。さて、11日は何事もなく無事に八雲牧場に到着したのでひと安心していたのですが、翌日12日は、放牧地から下牧させてそのまま牛を家畜車に積込むので多少不安を感じていたのですが、少し暴れただけで無事にヘレフォード種の育成牛2頭を積込む事が出来ました。積み込み後、函館のフェリー乗り場に向いましたが、フェリー埠頭に到着すると人が溢れていて何事があったのかと疑問を感じていたところすぐに事情は判明しました。

函館～青森間の列車の脱線事故により不通になったため青森に渡りたい人々がフェリーを利用しようと殺到したためだったのです。フェリーに積込まれた車は約30台と少なかったのですが、客室は乗客が一杯で足の踏み場もない状況でした。そのため、久保田主任は行きのフェリーでは横になって眠る事が出来たのに帰りのフェリーでは足を抱えて小さくなって4時間弱を過ごしていました。

青森に着き、フェリー乗り場を見て驚いたのはトラッなどの車両の台数は多くなかったのですが、人がぞろぞろとフェリーに向かって歩いていて、通常ではフェリー乗り場を見る事がない光景でした。青森から十和田へ



は何事もなく無事に夕方5時過ぎに到着し、検疫施設へ搬入の際に1頭が思いっきり十和田に土地に溶け込もうと農場内を走り回り、一苦勞しましたが、これから約2週間を過ごす検疫施設へ無事入舎しました。

八雲牧場から

東都生協親子体験来場

7月25日～27日に、東都生協の親子体験を受け入れました。

東京から2組の親子ら9名が来場し、牛の精子と受精卵の観察、北里八雲牛を使ったピザづくり、放牧牛の観察などを体験しました。

また、夜は北里八雲牛のBBQを行って、1日を通して牧場の取り組みと北里八雲牛のおいしさを味わってもらいました。



バッタ類（イナゴ）の大量発生

今年も昨年に引き続きバッタが大量発生しました。昨年は対策を講じる前に牧草が被害により激減しましたが、今年は二番草の早刈りを実施するとともにバギーと人海戦術



による捕獲を行い、最終的には800万頭、1.6tの駆除に成功しました。見た限りでは少なくなったかは定かではありませんが、捕獲した分だけ減ったと考えて来年の減少を祈るのみです。

学生実習終了

今年度の学生実習の受入が全て終了しました。

7月9日～11日、11日～13日 E科牧場実習

8月1日～5日、6日～10日、27日～31日、9月3日～7日

Z科牧場実習

8月20日～23日 医学部学生実習

9月25日～27日 ヤマザキ学園実習

昨年度の反省点であった学生実習時による通常業務の停滞を避けるために、学部フィールドサイエンスセンターから畔柳准教授の応援により無事収穫作業を進めることができました。

今年は、バッタが大量発生したことから実習内容の一部として、バッタの捕獲を行いました。学生も発生数の多さを実感したものと思います。

また、ヤマザキ学園は今年度より実習所の使用ができなくなったにもかかわらず、八雲町内に宿泊しながら実習を行いました。

今回の反省を来年に生かし、より良い実習を行なえるよう努力したいと思います。

北里八雲牛産直会議

9月21日に東都生協三本杉センター（東京）において、北里大学、(株)マルハニチロ畜産及び東都生協に三者による北里八雲牛産直会議が行われました。

八雲牧場からは、寶示戸牧場長、小笠原助教、小野係長の三名が参加しました。販売現状、今後の課題などを話し合い、八雲牧場からはバッタによる牧草の収穫量の減少、有機牛の取り扱いについて提案し、協議をしました。

ロールカッターの導入

八雲牧場では唯一の飼料となる自家産牧草のうちロール・ベール・サイレージとして収穫したものを無駄なく利用するため、今年度ロールカッターを導入しました。購入時のままでは八雲牧場の飼槽の高さに適応しないため、施設・機械の担当者を中心に改良を行っています。

今月、牛が下牧されれば、すぐに利用を開始する予定です。

(編集担当：畔柳 正)